

## (一般質問)

質問日	令和 5 年 12 月 4 日 (月)		質問方式	分割方式			
質問順位	8	会派名	市民クラブ	議席番号	12	氏名	石津 陽子
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 子ども・子育て支援について	<p>本当に必要とされる支援は何か、子育て世代の声をしっかりと受け止め、施策に取り入れていくことが必要である。現役で子育てをしている人のリアルな声は、これからの子育て世代を支援するための有効なヒントとなる。本市の子育て支援施策の評価が上がるかどうかは、本年6月から8月に実施した「令和5年度子ども・子育て支援に関するアンケート調査」を分析し、どう形にするかにかかっているのではないかと考える。</p> <p>(1) 一時預かりやはまずヘルパーなどについて、より充実した制度への大きな変革を求める。「ママのリフレッシュのために、もっと堂々と気軽に利用できる一時預かりのサービスが欲しい」、「保育サービスの受付や申し込みなどの手続きをオンラインでできるようにしてほしい」などの声がある。子育て世代のリアルな声を聞くことが、子育て世代が満足するサービスを構築していくことにつながる。そこで一時預かりやはまずヘルパーなどの充実に向けた取り組みについて伺う。</p> <p>(2) 本市人口の半数以上の登録がある「浜松市LINE公式アカウント しゃんべえ情報局」で子育ての情報を配信することは、子育て世代への積極的な情報発信になると考える。「浜松市公式LINEしゃんべえ情報局」からの子育て情報のプッシュ通知を子育て世代に積極的に届けることや、「浜松市子育て情報サイトぴっぴ」のLINEアカウントへの誘導として活用していくことを提案する。そこで「浜松市LINE公式アカウント しゃんべえ情報局」と「浜松市子育て情報サイトぴっぴ」の、LINEと連携した子育て情報の発信についての見解を伺う。</p>						吉積こども家庭部長
2 健康増進への取り組みについて  (1) 健康経営について	<p>健康増進のために、市民の健康に対する意識の向上や、病気の早期発見等、様々な角度・観点から健康増進を推し進めていくことが必要である。本市における健康増進への取り組みについて伺う。</p> <p>(1) 浜松ウエルネスプロジェクトの大きな柱として『地域企業の健康経営の推進』がある。本市では健康経営に取り組む企業を増やすことを目標に掲げ、2016年「健康経営優良法人認定制度」を開始している。企業の安定的経営を目指す基礎として従業員の健康に投資することは重要である。</p> <p>ア 健康経営優良法人認定制度の市内企業の取得率は</p>						藤野ウエルネス推進事業本部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>(2) がん対策推進について</p> <p>(3) 職員の健康増進に対する取り組みについて</p>	<p>どうか。また、健康経営優良法人の認定に向けた、企業への健康経営に関する情報提供の状況及び企業サポートの状況について伺う。</p> <p>イ 現在、進めている地域企業の健康経営実態調査の進捗はどうか。また、こうした現状把握とともに企業の意識向上に積極的なアプローチが必要であると考えるがどうか伺う。</p> <p>(2) 本市では2013年度に「浜松市がん対策推進計画」を策定し、2018年度からは「第2次浜松市がん対策推進計画」に基づき、がん検診推進事業、がん予防・早期発見対策を行ってきた。今年度は第2次計画の最終年度のため、来年度からの新しい第3次計画について策定準備が進められている最中である。</p> <p>ア 「第2次浜松市がん対策推進計画」では、がん教育・がんに関する知識の普及啓発・人材育成の部分が新たに加わった。特に、学校教育におけるがん教育は、学齢期から正しい知識を身に付けるという点において非常に重要であり、がん経験者の話や専門的な方の話を聞くなど、外部講師による講座を積極的に活用すべきと考える。</p> <p>そこで、本市の小・中学校におけるがん教育の実施状況と今後の取り組みについて伺う。</p> <p>イ がん検診率は非常に低く、本市の2022年度の受診率も厚生労働省が示しているがん検診受診率目標の50%を大きく下回るのが現状である。こうした中、浜松市LINE公式アカウント「浜松市がん検診」がリニューアルした。全体のがん検診の受診推奨とするLINEと位置づけ、周知・登録推進を進めていくべきと考えるが、どうか伺う。</p> <p>(3) 市役所内部においても「健康経営」の視点を取り入れることで、質の高い市民サービスの提供や効率的な行政運営につながることを期待される。職員に関する健康管理や健康増進への取り組み、またがん検診受診率はどうか。また、地方公務員の定年延長による職員の高年齢化への対応として、身体的不調者の増加への対応、未病対策にも取り組んでいく必要がある。定年延長に伴う対応として、新規の取り組みについてはどのような見解か伺う。</p>	<p>奥家学校教育 部長</p> <p>平野医療担当 部長</p> <p>田中総務部長</p>
<p>3 ビーチ・マリンスポーツの振興について</p>	<p>現在、2018年度に策定されたビーチ・マリンスポーツ事業化計画に基づいた各地区の拠点整備が進められている。2025年に一部供用開始になる遠州灘海浜公園江之島地区ビーチコートを核として、江之島地区から中田島に続く防潮堤沿いの賑わいも期待できる。ビーチコートを点ではなく、面で捉えて周辺地域の広域的な開発を進</p>	<p>嶋野文化振興 担当部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>め、また2027年のビーチコート完全オープンまでの期間の盛り上げも必要であると考えます。</p> <p>(1) サーフィンは東京オリンピック2020で初めて追加種目となり注目が集まる。県内各所でもサーフィンでの地域振興が進む。長く海岸線があり、いい波に恵まれている本市もサーフィン人口が多く、プロサーファーも多く輩出しており、本市でもサーフィンでの地域活性化を進めるべきであると考えます。ビーチ・マリンスポーツの推進として、2025年にビーチコートが一部供用開始になることに合わせ、サーフィンの国際大会の誘致を検討してはと考えるが、どうか伺う。</p> <p>(2) ビーチ・マリンスポーツの振興に伴って、市民のビーチへの興味・関心も高まり、海岸線への来訪者は今後益々増加傾向にあると考えられる。周辺各市町において、海岸線の施設が整えられている場所が多くあることから、本市もビーチ・マリンスポーツの振興発展に合わせ、海岸沿いに清潔で安心感のある、多様な属性の来訪者が利用できる施設やトイレの設置とともに、海利用者目線で砂を落としたり、手を洗ったりできるシャワーや水洗い場などの環境整備を改めて進めるべきと考えるが見解を伺う。</p>	
<p>4 浜名湖を活かしたプロモーションについて</p>	<p>浜名湖では、様々なマリンスポーツやアクティビティを満喫できる。浜名湖の雄大で誇るべき自然環境を活かすべきである。現在も様々な角度から観光プロモーションを行っている本市だが、浜名湖を活かした観光プロモーションのさらなる拡大を希望し今後の展開について伺う。</p> <p>(1) シビックプライドの醸成を目指し、市民が地域に愛着や誇りを持ち、地域の魅力を自ら発信していくという好循環を目指すことが重要である。そこで、今以上に市民がマリンスポーツやマリンアクティビティを楽しむ機会の創出が必要であると考えます。現在の市民向けマリンスポーツの周知・推進の状況と機会の創出についての考えを伺う。</p> <p>(2) ソーシャルディスタンスを保つ移動手段として自転車が目ざされ、さらに環境志向、健康志向の面からも世界的に見直されている。しまなみ海道は、台湾の自転車メーカーであるジャイアントの協力でイベントが開催されるなど、国内外から多くの人々が足を運ぶサイクリングロードとなっている。自転車産業で日本を代表する会社といえば(株)シマノがあるが、ここ浜松には、シマノのサプライヤーが複数社ある。浜名湖のサイクル・ツーリズムが盛り上がれば、自転車の街として注目され、シマノからの協力も期待できるのではないかと考える。</p>	<p>嶋野文化振興 担当部長</p> <p>齊田観光・ブ ランド振興担 当部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>浜名湖周辺はハマイチとしてサイクルロード整備が進められているが、浜名湖周辺のサイクル・ツーリズムのさらなる推進を目指し、サイクル・ツーリズムとしての現在の浜名湖周辺の現状と今後の方針について伺う。</p>	
<p>5 障害のある学生の修学支援について</p>	<p>重度の障害がある学生が通学して学業を修めることは、現在、簡単にできる状態にはない。2018年に国が大学等において重度の障害のある学生に身体介護等を提供する「重度訪問介護利用者の大学修学支援事業」を、それぞれの自治体の裁量で制度化できるとしたことにより、重度の障害のある学生が大学への通学や学内でヘルパーの介助を受けられるようになった。現在、本市ではまだこの制度は確立されていない。政令指定都市の半数以上が重度訪問介護利用者の大学等修学支援事業を実施しており、静岡市でも2019年6月から施行している。本市でも早急な制度の確立が望まれるが、本市での重度訪問介護利用者の大学等修学支援制度の実施についての見解を伺う。</p>	<p>鈴木健康福祉部長</p>